

令和4年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	16	学校名	静岡県立小山高等学校	校長名	鈴木 広隆
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
全日制	教職員が全体で教育活動に当たる体制を整備していく中で、学校からの情報発信を一層充実させるとともに、ワークライフバランスを尊重しながら協働する組織づくりを行う。	「小山高校は、保護者、中学生、地域に学校の魅力が伝えられるような情報発信をしている」保護者・生徒 80%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内は大変見やすくなった。 ・小山町の広報誌に小山高校のコーナーを入れてもらったかどうか。 ・スクール・ポリシーをインスタグラムに入れてはどうか。
		「お互いのワークライフバランスを尊重しつつ、教育活動に協働して取り組んだ」教員 80%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方には、これからも協力しながら教育活動を行っていただきたい。
全日制	生徒が安心して登校し、安全に学校生活を送ることができる教育環境を整備することを土台とし、挨拶の励行や認め伸ばす指導のもと、人権意識の涵養等、生徒の内面の成長を促していく。	「安全・安心な生活を送ることができる」生徒 95% 「小山高生は交通法規を守り、事故防止に努めている」生徒 90%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車で通学しているところを見るが、広がるようなこともなく、マナーはよい。 ・御殿場に通じる幹道は危ないところも多いので気を付けてもらいたい。 ・ヘルメットの努力義務が言われているが、守らせるとなると指導が大変になるのではないかな。
		「小山高生は元気な挨拶ができる」生徒 90% 「小山高生は、正しい身なりや服装が習慣化できている」生徒 90%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の挨拶は素晴らしい。
全日制	学校全体で進路対策に当たり、生徒が進路に対する意識を高め、適切に進路を選択して希望する進路を実現できるよう支援する。そのために、読解力、記述力の伸長、家庭学習の充実を図り、大学入学等に必要とされる学力を育成する。	学びの基礎診断における1・2年生の成績（GTZ）が年間を通じて1ランク上昇する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・成果目標が達成できなかったのは、目標設定が高かったからではないかな。
		「学校は進路情報を提供し、進学説明会を行うなど、計画的に進路指導を行っている。」80%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路については、良い結果がでている。

様式第5号

全日制	生徒が主体的に取り組み活躍できる教育活動を展開することで、自律的に行動する力や「小山高生」であることを自覚して集団に適應する力を高めるとともに、国際社会や地域への関心を深め、広い視野から地域に貢献しようとする意識を醸成する。	「部活動、生徒会行事、学校行事などを通して、地域との交流が図られている」生徒 80%	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで制限がある中ではあるが、地域行事に参加していただき、大変助かっている。 ・吹奏楽部なども積極的に地域行事に参加してくれている。 ・足柄駅にできた金太郎像はかわいらしく、とても素晴らしい。
全日制	授業公開や参観の実施、研修への参加等により、「主体的、対話的で深い学び」や生徒のICTの活用による授業改善を推進し、教員の授業力を向上させる。また、総合的な探究の時間を充実させる。	「学校はICT活用等、授業改善に積極的に取り組んでいる。」85%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使用した授業なども見させていただいたが、意欲がわく授業であった。双方向的に使用できていて良かった。 ・ICTを活用することで育たなくなる力もあるので、そのような力を普通の授業等でどのように育てていくかが課題である。
		「総合的な探究の時間の趣旨を理解し、指導することができる」教員 80%	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間の取り組みを実際に見ていないので、少しわかりにくい。
定時制	自立の心を持った生徒を育てる生活指導とすべてに優先する安心安全な学校作り	・登下校を含む学校生活における重大事故発生0件。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の過失ではない交通事故については評価を下げる必要はないのでは。 ・事故後“どのように対応したか”で考えればよいのでは。
		・いじめ、恐喝、窃盗の発生0件。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き生徒にとって安心・安全な学校作りに努力していただきたい。
		・「授業・生活アンケート」の主体的行動、生活態度の項目における肯定的自己評価90%以上。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・病気が起因となった結果という現状を考えれば、評価を下げる必要はないのでは。生徒には“こういう長所がある”という視点を持って対処していただければいいと思う。
定時制	基礎基本の定着と自ら学ぶ姿勢の育成	・授業アンケート評価10項目で肯定的評価全て95%以上。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1項目のみの目標未達、しかもその項目も数値がわずかに届かなかった程度である。全体平均は目標を上回っており、評価を下げる必要はないのでは。
		・「基礎力診断テスト」の正解率60%を目指す。	判定不能		
定時制	勤労観及び自ら進路を切り拓く力の育成	・進路未決定者を0人にする。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な背景を持った生徒がいる中で、大半の者が進路を決定しており、十分ではないか。

様式第5号

		・進路行事、各学期1回実施。	A	A	・引き続き生徒の進路意識醸成のため努力していただきたい。
定時制	家庭・職場・地域からの理解及び協力を得た生徒支援体制の充実	・HPを見た家庭の割合60%以上。	B	A	・目標は達成しているのでA評価でよいと思う。自己評価を下げた課題となる部分については、次年度以降努力していただければよい。
		・HPを見た教員の割合100%。	A	A	・次年度も職員相互の協力体制を維持し、より良いホームページ作りをしていただきたい。
定時制	組織力を高め、学校全体として教育に当たる体制の推進	・研修内容は適切だったか、意思の共有ができたか、について職員アンケートを行い、肯定的な評価が90%以上である。	A	A	・次年度も様々な教育課題に対して適切な研修テーマを設定し、教職員一丸となって対処して欲しい。
定時制	業務改善による教員の豊かな教員人生の確保	・「児童生徒と向き合う時間」や「指導準備時間」が増えていると感じる教員の割合100%。	B	A	・ただ単に「残業時間を減らす」というのではなく、左記のような成果目標が本来の働き方改革の趣旨に適ったものであろう。そうした視点を踏まえれば、目標値に達しなかったとはいえ、評価を下げる必要はないのではないか。
		・職員の年休等休暇取得率前年度比10%増。	B	A	